

アクション・リサーチのまとめ

学校名 岐阜県立大垣北高校

研究年度 20 年度 研究対象 (学年クラス等) 2年生 生徒数 318名(男子189、女子129)

科目名 英語Ⅱ 単位数 2 使用教科書名 UNICORN ENGLISH COURSEⅡ (文英堂)

学年の様子・特徴

生徒の大半は意欲的で、学習全般によく取り組んでいる。学習については、予習や小テストの準備を基本に取り組み、復習まではなかなか手が回らない様子である。また徐々に難化する教材に対して行き詰まりを感じている生徒もいる。これまでの学習の積み重ねが、生徒たちの力に大きく反映しているように思われる。

問題の特定

2年生としての指導の在り方を探求する。

- ①19年度から引き続き、音読や書き取りなど、様々な角度から「英語の力」を伸ばし、「使える英語」と実感をもたせる方策
- ②学んだことを積み重ねていく方策
- ③科目や教材にこだわらず、英語科全体として「英語の力」を高める指導の方策

現状把握

A 授業観察・授業アンケート

①19年度より取り組んでいる学習方法が定着し、習慣化してきた。

例)スラッシュリーディングによる読み・内容理解の指導、教科書の音声教材の活用、教科書本文を利用した復習

- ②読むことに抵抗が少なく、どんどん読み進め、おおまかに英文の概要をつかむ力はあるものの、文法の知識を生かし、正確に内容を把握するまでには至っていない。
- ③扱う教材が難化するため、従来の学習方法にさらに一工夫が必要ではないかと感じる。

B GTEC

Readingでは、要約や情報検索の力が伸びている。Listeningも正確さが増し、全体として伸びている。授業に加えて、全校で取り組んでいる朝リスニングでは、大量に流れる英文の概要把握という活動を毎朝繰り返し行っているため、読み・聞く活動において本文全体をつかむ力が伸びているように思われる。これらに反してWritingはあまり伸びておらず、対策が必要である。

C 質問紙調査

- ①Readingでは、「本文の単語調べ→本文訳→本文の音読」という予習が定着している。読む量としては十分な量があるため、これら教材を生かし、語いを増やすこと・パラグラフの構造をつかむことで、未知の内容にも対応できるような英語力へと全体としてアップしていくことが課題となる。
- ②Listeningはよく伸びているが、集中力を持って聞き取る力と、言い換えの表現に対応できる力をさらに伸ばしたい。
- ③Writingについては、内容を伝えるために必要な語いの少なさが課題として挙げられる。また、文法的に正確に書く力も伸ばしたい点である。また今回の設問では、意見をもつ(=意見を書く)ことも問いの一部であったが、自分の意見をもつための思考が十分でないと考えられる。
- ④全体としては、学んだ内容を定着させていくための復習が鍵となる。
- ⑤ペアワークに積極的に取り組み、アイデアの共有から理解を深めている生徒が多い。

リサーチ・クエスチョン

「使える英語」の力を様々な角度から伸ばす方策；

「読める」「書ける」＝学習の積み重ねにより、「学んだことを再現できる」力を身に付けられるのではないか。

仮説・実践・検証

仮説1

<読む活動>
◇19年度からの継続・発展
・読み取る前に、本文の内容に関する活動を設け、本文の全体像についてテーマを理解した上で読み進めることで、正確に読む力

実践1

・レッスンの冒頭に、レッスンの文章全体に目を通し、内容に関するQuestionに答えて全体テーマをとらえてから、詳細を読み進めるよう促す。
・文章中のディスコースマーカに注目し、論理展開を意識しながら読み進めるよう促す。問題提起・例示・説明の具体化・結論など、英文の論理展開を意識しながら読み進めるよう促す。

検証1

<生徒の感想・テスト等の評価から>
・文章の論理展開に注目することが習慣化してきた。一文ずつの意味を理解するのに苦労する場合も、まずテーマの把握を意識して先へと読み進め、文脈全体として理解することを優先することで、ヒントを得ることができる。
・論理展開に注目することは自分で読

<p>が向上するのではないか。 ・文章の論理展開に注目することで読む速度が高まるのではないか。</p>	<p>す。</p>	<p>み進める時に活用でき、便利だという生徒の感想が多い。 ・流れをつかむことで、漫然と読む生徒が減り、速く読み進めることができるようになってきた。</p>
---	-----------	--

<p>仮説 2</p>	<p>実践 2</p>	<p>検証 2</p>
<p><声を出す活動> ◇19年度からの継続・発展 音読練習と文章の内容把握を組み合わせ、一致させて読むことによって、正確に文構造や文脈を理解することができるようになるのではないか。</p>	<p>・「読みの切れ目=内容の切れ目」を意識しながら、音読する。一文内の意味の切れ目(句や節、SVOC)の段階から、段落内での内容の切れ目(各段落のトピック、例示、結論といった論理展開)の段階へと広げて、段落内を複数の英文のまとまりにまとめつつ読み、内容理解を促す。 ・難易度に応じて、教員から「この文からこの文まで」のように示すこともあれば、生徒に問う場合もある。教員から示す場合は、構造把握のモデルとなることを意識する。</p>	<p><生徒の感想・テスト等の評価から> ・「実践1」と同様に、生徒たちはディスプレイスコーンマークを活用してヒントを得ながら読み進めている。 ・段落内の構成から、英文全体の構成の把握へと発展しつつある段階である。 ・音読することでまとまった文章のリズニングにも大いに効果的である。</p>

<p>仮説 3</p>	<p>実践 3</p>	<p>検証 3</p>
<p><アウトプット+復習> ◇19年度からの継続・発展 復習として英語を「書く」活動を多く設けることで、学習した内容の定着を図ることができるのではないか。</p>	<p>・教科書のレッスン毎に要約・語句を確認する本文プリントを配布し、語法・構文に注意して本文を再構成する(英語でアウトプットする)。 ・英語を適切に書くよう促すため、英語IIやリーディングでも英語を書くようテストの設問を工夫する。 ・教科書で扱った事項を、形を変えて反復して練習する機会となるよう、副教材を活用する。また授業での取り組みを授業内にとどめず、各自で生かして副教材に取り組むように促す。 ・副教材を活用して、基本例文を書くことと声に出すことを同時に行い、定着を図る。</p>	<p><生徒の感想・テスト等の評価から> ・「とにかく」何度も英語を書き、口に出すことで、英語の感覚・リズムが身に付き正確に書くことにつながったと言う生徒が多く、英語が苦手だった生徒にとっては突破口となっている。また、より正確に聞き取る力にも反映している。 ・教科書と副教材で、繰り返し扱われていることを意識して取り上げることで、反復の練習となっている(小テスト等)。</p>

<p>仮説 4</p>	<p>実践 4</p>	<p>検証 4</p>
<p><目標の設定と評価> テストの内容を改善するとともに、復習教材としてテストを活用することによって、学習した内容の定着が進み、学習に対する意欲が向上するのではないか。</p>	<p>・毎週のWeeklyテストや考査ごとに答案分析をし、「英語力を付ける上で」気を付けるべき課題(目標)を教員間で明らかにして、生徒に示した上授業にも反映していく。 ・定期テストの出題内容に「目標」を反映させる。科目の特性にこだわらず共通の「目標」として設定する。 例) 前期中間考査後の課題→前期末テストの出題に反映させる。 ◇課題の例 ・日本語訳にこだわらず、正確に英文の構造を把握して意味を理解すること。 ・ケアレスミスに気を付け、正確に書き切ること。 ・小テストや考査を活用することで、更なる復習材料として、各自の理解のあいまいな点を解消するよう促す。</p>	<p><生徒の感想・テスト等の評価から> ・生徒にとって目標を明確にもつこと、目標とテストを一致させることが、モチベーションの高揚につながる。 ・教員にとっても、漫然と時間に追われて授業を進めることなく、教材内容にとらわれず、長期的視点で、かつひとつの「英語」として「何を教えたのか」という目的意識をもって授業展開ができた。 ・「実践3」とも関連し、テストを見直して復習の材料として活用することが習慣となり基本事項の定着と、自主的な学習習慣の定着という点で効果的だった。</p>

研究の成果

<p><生徒の感想・テスト等の評価から> 「学んだことを再現できる」力という面から、英語の力を高めるという目標に向かいつつあると言えるが、一つ達成すれば、求められる語いや表現が次々と難しくなっていくため、その実感を持ちにくい生徒が多いのが現状である。ただ、各文や単語レベルではなく、英文全体をとらえようとする姿勢や、論理展開をとらえる力が身に付いているこ</p>

とは確かであり、7月に実施された GTEC でもその様子が見られた。

また、この一年を通じて、様々な角度から求められる英語の力について教員の理解が深まり、生徒へ還元することができたと思う。

今後の課題

扱う教材の難化とともに、幅広い語いを持つことがキーとなる。今後は語いの指導法を工夫したい。また **Writing** を課題としながらも、英語そのものを正確に読み・書くことに重点を置いたため、読み取った内容に対する自分の意見を書くというレベルまで達することがなかった。内容に対して問い掛け、考えをアウトプットする機会も設けていきたい。

